

写真帖『中道軒の内外』

写真に見る「洋館」の不可思議な美学

令和3年7月1日（木）～9月18日（土）
登録有形文化財「藤岡家住宅」にて展示



NPO 法人うちの館

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526

☎ と fax 0747 (22) 4013 info@uchinono-yakata.com



煙突

写真帖『中道軒の内外』

写真に見る「洋館」の不可思議な美学

令和3年7月1日（木）～9月18日（土）
登録有形文化財「藤岡家住宅」にて展示



風向計

中道軒（ちゅうどうけん）（別名 大丸ヴィラ）は大丸の創業家12代目当主下村正太郎によって建築された英国チューダー様式の建物（昭和7年完成）です。設計者は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズで、京都市の登録有形文化財に指定されています。

この建物は、大丸創業家第12代当主下村正太郎が、英国リバティ百貨店に影響を受けて作られました。同写真集の巻頭で下村は、「（リバティ当事者は）廃艦（注・古くなった軍艦のこと）二隻の古材を用ひてヘンリー八世並にエリザベス女王時代の様式に倣ふた世界無類ハーフチンバーの営業場を建造し・・・」と書いていますが、ハーフチンバーの営業所とは、リバティ百貨店を指す言葉です。ハーフチンバーとは“half timbering”。柱や梁、筋交いなど木の構造材を外側にむき出しにし、その間を漆喰やレンガで埋めた、特徴のある外観のある建築様式で、半分は材木で半分は漆喰やレンガが見えることからこの名で呼ばれました。

下村の建築した家はこのようにイギリスのチューダー様式でまとめられているところから中道軒（ちゅうどうけん）と名づけられました。英国でチューダー朝が始まるのはヘンリー7世の統治時代、1485年からで、その後エリザベス1世が亡くなる1603年までの、ゴシック時代の中に存在したこの期間のデザインを「チューダースタイル」と呼んでいます。下村はリバティの新店舗の写真が報道された時のことを次のように書いています。「私は一種の感に打たれ、直ちにリバティ商会に依頼して新店舗のスケッチを取寄りました處、益（ますます）其古風なスタイルに多大の憧れを持つ様になりました。」

下村が建築後に発行した写真帖『中道軒の内外』に収められた31枚の写真には、建築当初の中道軒の内外の風景が残されています。写真帖の原資料を手にとって見て頂くことはできませんが、今回その内容をデータ化して簡易版に複製し、手にとってページをめくることができるようにしました。また、写真を拡大して、その詳細な部分までを見ていただけるようにしました。

日本の実業家が英国の古い建物を模して新しく建築した洋館は、昭和初期の日本の美学と共鳴し、不可思議な魅力をもつ空間です。この機会にどうぞご覧下さい。

「昭和五年の夏工を起し同七年の夏家だけ（庭園を除き）竣成しました。名付けて中道軒と致します。設計監督はヴォーリズ建築事務所、工事施工は合資会社清水組、暖房は山田工務店、給水・衛生・防火設備は桐田商会、電気諸工事は山科電機製作所、塗工事は小山玉之助氏、室内装飾は株式会社大丸の様家具部、造園は戸野事務所、等の手に依り成されました。御客様御宿りの為めの室が二つ在りますから外賓等の御利用を願ひます。」

昭和七年七月

中道軒主 下村 正太郎



お問い合わせは：当館を管理する NPO 法人うちの館まで

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 ☎と fax 0747 (22) 4013 info@uchinono-yakata.com
9時～16時。月曜休館（月曜が祝日の際は開館して翌日休館。高校生以上 300円/小・中学生 200円